

令和元年度第2回都城市総合教育会議 議事録

日 時：令和2年1月31日(金)午前10時30分～正午
 場 所：都城市役所本館4階 秘書広報課前会議室
 出席者：都城市長 池田 宜永、教育長 児玉 晴男
 教育委員 赤松 國吉、中原 正暢、
 濱田 英介、岡村 夫佐

発言者	内 容
吉永総合政策部長	<p>ただいまから令和元年度第2回都城市総合教育会議を開催いたします。</p> <p>私は、本日の会議の進行を努めさせていただきます総合政策部長の吉永でございます。どうぞ、よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、はじめに、池田市長から挨拶をいただきたいと思ひます。</p>
池田市長	<p>皆さん、こんにちは。令和元年度の第2回総合教育会議ということであります。よろしくお願いいたしますと思ひます。</p> <p>この総合教育会議につきましては、地方教育行政の制度変更によって、市長が教育長を任命することになったことから、市長と教育委員会がさらに連携するために設置されているものであると考えております。</p> <p>さて、先日用務で上京した際に、文部科学省を訪問しまして、教育ICT関連政策の「GIGAスクール構想」について、直接話を聞いて参りました。</p> <p>文科省の教育ICT整備政策は、令和元年度中で大きく動いており、このような中で、本市も学校のネットワーク整備を来年度実施する予定です。</p> <p>昨年度は小中学校へのエアコン整備を決定し、これは本年度中には工事が終わる予定だと聞いていますが、これと同様に、国の支援を受けてやるからには、教育委員会の事務的負担は増えると思われますが、遺漏のないように宜しく願ひしたい。</p> <p>本日は、協議も含めて3つの議題を予定しており、委員の皆様からは忌憚のない意見を述べていただきたいと思ひます。</p>
吉永総合政策部長	<p>ありがとうございました。続きまして、児玉教育長から挨拶をいただきたいと思ひます。</p>
児玉教育長	<p>まずはお礼から申し上げます。この総合教育会議は、市長の下に集まることが出来る大事な会議でございますが、市長が招集することとなっております。この会議を開催していただきましたこと、誠にありがとうございます。</p> <p>昨年度は全国的ニュースとして、「教員同士のいじめ」や「こどもの自殺」など、これらを議題にした総合教育会議には、マスコミ各社が入り、広く公表されたことを記憶しております。</p> <p>この会議により、これからの教育行政の課題であったり、またその深掘りであったりを進めていきたいと考えております。どうか、これからも宜しく願ひいたします。</p>

吉永総合政策部長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは協議事項に入ります。協議事項以降の進行につきましては、池田市長にお願いいたします。</p>
池田市長	<p>はい。それでは協議事項に入ってまいります。</p> <p>まず、協議事項として「次期教育大綱の策定に向けて」となっております。事務局より説明をお願いします。</p>
総合政策課長	<p>はい。総合政策課長の西川です。よろしくお願いいたします。</p> <p>資料による説明に入る前に、教育大綱の策定に関するこれまでの経過について簡単に説明いたします。</p> <p>平成 27 年の法改正により、教育大綱を総合教育会議で協議・策定することが規定されています。これを受け、本市でも、平成 27 年度に総合教育会議を設置し、協議を重ね、平成 29 年 4 月に第 1 期の都城教育大綱を策定しました。第 1 期の教育大綱は来年度末に期間が終了するため、来年度末までに、次期大綱を作成する必要がありますので、今回改正点やスケジュール案をお示しするものです。</p> <p>説明の流れは、国の計画について教育総務課長が説明し、その後、私が策定に向けたスケジュールや次期大綱案を説明いたします。まずは、国の教育振興基本計画について教育総務課長が説明します。お願いします。</p>
教育総務課長	<p>はい。教育総務課長の岡田でございます。</p> <p>国の第 3 期教育振興基本計画につきましては、お手元の協議資料 1 にて説明させていただきます。</p> <p>平成 30 年 6 月 15 日に、平成 30 年度から令和 4 年度までを期間とした、第 3 期教育振興基本計画が閣議決定をされております。この第 3 期計画では、「超スマート社会 (Society5.0)」「人生 100 年時代」の到来を見据え、今後の教育の普遍的な使命や 2030 年以降の社会を展望し、5 つの基本方針を掲げております。また、具体的な目標を 21 個掲げ、進捗を管理しながら進めるとされております。例えば、学力向上については、毎年度実施される学力調査の結果を指標とし、分析・活用することとされております。</p> <p>国の第 2 期計画においては、4 つの基本方針を掲げられており、現行の本市教育大綱は、これを踏まえて策定されております。「自立」「協働」「創造」の理念を第 2 期計画から引き継ぎ、新たな重要事項である Society5.0 や人生 100 年時代について参酌しながら、第 2 期教育大綱を策定するものと考えております。</p>
総合政策課長	<p>続きまして、協議資料 2 をご覧ください。</p> <p>こちらは、教育関連計画の期間と、次期大綱策定へ向けたスケジュール案を記載したものになります。</p> <p>本市の第 1 期教育大綱の期間は平成 29 年度から令和 2 年度までの 4 年間となっております。第 2 期教育大綱については、令和 3 年度から令和 6 年度の 4 年間で予定しております。</p>

	<p>スケジュールについては、本日の総合教育会議をスタートとしまして、来年度夏頃に予定しております、次回総合教育会議で修正案を作成し、協議していただきたいと考えております。そして、10月には最終案を作成しまして、12月から1月にパブリックコメントを実施、翌年2月の総合教育会議にてパブリックコメントの結果を報告、来年度末には策定、という流れになっております。</p> <p>次に、協議資料3は現行の教育大綱でございます。そして、協議資料4が事務局で作成しました、見え消しで修正しています素案でございます。</p> <p>素案につきましては、第1期教育大綱をベースとしながら、先ほど説明しました、国の第3期計画の新たな視点を追加するという考えで修正しております。</p> <p>追加した新たな視点というのは、Society5.0、人生100年時代の到来、この2つについてでございます。</p> <p>具体的に中身になりますが、5枚目のページ、施策の方向性1については、全体を見て、課題等の文言は削除し、「数値に基づく分析」「ICT」の追加、また、校内研究に「実践的な」という文言を追加。そして、「学習環境」を「学習・指導環境」へ修正しております。</p> <p>同ページ下段の方向性2の、社会を生き抜く力についての言及については、教育行政の優先順を鑑み、段落を入れ換えております。結果、人格形成の部分を上段に、キャリア教育を下段としております。</p> <p>次ページについて、施策の方向性4は表現の修正、更に次のページの施策の方向性5は、人生100年時代について言及するために、「年代によらず」という意味で「年代や」という文言を追加。現行大綱策定時は建設中であった市立図書館を「新図書館」としていたものを「図書館」と修正しました。</p> <p>以上が、主な修正案となりますが、これ以外にも記載すべき事項等ございましたら、御意見をいただき、反映させていきたいと考えております。</p> <p>説明は、以上でございます。</p>
池田市長	<p>ありがとうございました。</p> <p>ただいま説明のありました「次期教育大綱策定に向けて」につきまして、皆様から御意見・御質問等ありましたら挙手をお願いします。</p>
濱田委員	<p>教育大綱の目標を掲げるイメージとして、本質的かつシンプルなものにするというのが大事だと思います。これにより狙いを明確化する効果にもなります。</p> <p>教育の目標は、個人（と社会）の幸福ですが、こども達を対象とした義務教育の期間であっても「学ぶことが何になるのか」ということを認識することがまず大事で、「教えられる」から「自分で学ぶ」へ切り替えていかないと、これからの時代に対応できないのではないかと思います。</p> <p>教育を受ける「権利」、これは幸福になる権利とも言えますが、こういったことも盛り込む必要があると思います。「義務教育」という言葉から、学ぶことは義務、と認識しがちではあるが、自主的に学ぶ、という意味で、権利という視</p>

	<p>点を中学生までに学んでおく必要があるのかなと思います。</p> <p>また、科学や技術に関する教育、これらが Society5.0 においては重要視されられると思われま。これは、小中学校で科学や技術の授業をもっとやって欲しいという記載でなくても、高等教育機関や企業との連携などの分野に、より高い技術を知る機会を創るという意味でも、盛り込んでも良いのかなと思います。</p>
岡村委員	<p>現行の本市教育大綱には、ICTのインフラ基盤整備部分の記述が少ないと思われま。もう少し具体的に、何を目標として Society5.0 時代に ICT を整備するのかを記載した方が良いと思いま。</p> <p>今回の事務局案では学力の分野の箇所に ICT 整備の記載がありますが、社会を生き抜く力にも影響があると思われま。この分野にも ICT の記載があってもよいのではないかと思いま。</p>
池田市長	<p>御意見ありがとうございます。</p> <p>大綱という位置付けからすると、私も、濱田委員の言われるようにシンプルなものが良いと思いま。あまりに細かいことを記載する必要はなく、大綱では、しっかりと議論した上でどこまで記載するかを決定すべきで、大綱の下には本市の教育振興基本計画がありますので、この計画でより詳しい内容を記載するという住み分けをすれば良いように思いま。</p> <p>自主的に学ぶということは大事であると思いますが、権利と義務の関係はなかなか日本人が不慣れとする所で、例えば授業をアメリカと比べると、未だに講義スタイル。また、「権利」と「義務」の話になると、「義務を果たしているから権利がある」とかの話になってしまいますが、どちらかだけ主張してはいけないと思いまし、日本ではまだ足りない部分とは思いま。</p> <p>大綱について、今回はたたき台ということで、今後しっかりと議論し、より良い大綱としていきたいと思いま。第3期計画で目標などの項目が増えているので、工夫をしてシンプルなものとして策定していきたい。</p> <p>先ほど示したスケジュール感で進めま。都度、先生方の御意見・御協力をお願いいたしま。</p> <p>それでは、次の意見交換に進みま。</p> <p>「Society5.0 における学教教育の方向性」について、担当課から説明をお願いします。</p>
学校教育課長	<p>はい。学校教育課長の深江でございます。</p> <p>それでは、テーマ1「Society5.0 における学教教育の方向性について」の説明をさせていただきます。</p> <p>～ 国の示す Society5.0 における学校教育、 また、本市の現状と目指すべき方向性について説明 ～</p> <p>説明は以上になります。</p>

池田市長	<p>ありがとうございました。</p> <p>ただ今、担当課から説明をしていただきましたが、こちらにつきまして皆様方から御意見・御質問がありましたらお願いします。</p>
中原委員	<p>超スマート社会・Society5.0については、色々と文科省の進める方針もあるのですが、世界の中での日本という立場もありまして、そして日本の中での都城という立場もあります。立ち位置を明確にして、ぶれないように・ダブルスタンダードにならないように進めていきたいと思えます。</p> <p>そして、こういった超スマート社会の中で、逆に、超アナログな部分をどうやって残していくか、ということも重要な課題だと思えます。これは、日本が古来から大切にしてきた部分でもあり、今後も大事になるものだと思いますので、軸足として残す部分を考えるのも今後の課題ではないかなと思えます。</p>
岡村委員	<p>ここ数年で、急激なデジタル化が進み、情報が溢れている時代となっており、こども達には、何が大事で何を情報として得るべきかを認識できるような教育をしていくことが大事だと思えます。</p> <p>本市では、学校環境の整備は着実に進んでおり、今後はICTの整備も進むと思われまます。ICTは不登校児童対応へのフォローにも活用できるかもしれませんし、その効果には大きな期待が持てまます。</p> <p>学習用パソコンを児童生徒1人に1台提供するという環境が整備されたとしても、今度は、教職員がスムーズに使えないという可能性もありますので、今後は、ICT支援員等によるICT活用支援策の検討も必要だと思えます。</p>
赤松委員	<p>「誰一人取り残すことのない、公正に個別最適化された学び」の達成には、ICTは不可欠かもしれませんが、いくら科学技術が進んだとしても、人間でなければ出来ないことがあります。</p> <p>教育の根本は教育愛に裏打ちされ、一人ひとりの子どもたちの人間性や個性に応じて指導できる豊かな人間力を備えた先生の育成であると考えております。人間力があってICTも活用できる、このような教職員を育成していくべきだと思えます。</p>
児玉教育長	<p>「誰一人取り残すことのない、公正に個別最適化された学び」は文科省が最も強調している部分でもあり、こういった世の中にするためにもICT機器を教育に活用していこうということになります。</p> <p>学習用パソコン一人1人に1台等のICT環境整備は、手段であって目的ではないという認識が重要であり、目的はこども達の成長であると考えています。</p>
池田市長	<p>教育行政の目的は、学力向上やこどもたちの成長であり、ICTは手段のひとつで、これをどう繋げていくかが重要であると思えますし、見失ってはいけないものです。この達成のために必要な人材であれば、ICT支援員等も検討することになると思えます。</p> <p>一方で、まさに中原委員のおっしゃるとおり、いくら技術が進んでもアナログ部分は残ります。これが根っこであり、ICT等は、使う人次第ということで、人間こそが最重要。使う人によっては悪用されることもあり得まますし、こ</p>

	<p>ういう時代だからこそ、残される部分であるアナログは重要であると思えます。</p> <p>また、Society5.0の到来について、教育の世界では、「教員の働き方改革」が1番最初に記載されることが多いのですが、本市としては、「こどものため」を最重点項目として取り組みたいと考えています。教育現場と共有したいのは、「こどもが1番目」ということです。</p> <p>そして、ICT=学力向上というのには、正直に申し上げると違和感があります。先ほどの話と同様に、ICTを使う人で結果は変わるはずでして、繰り返しになりますが、使う人間が大事であると考えます。</p> <p>こどもが1番目だと考え、その成長に関心があれば、叱るという行為はやむを得ないと考えています。叱らないことは、こどもの成長に対して無関心であるということで、目の前のこどもの成長に熱心であれば、必ず言動に繋がると思います。これは「愛」であり、教育には「愛」が必要だと思う。</p>
児玉教育長	<p>昨今のこどもは、「叱られ方」を学ぶ時代となっております。叱られることに慣れていませんので、叱られても自分の言動を振り返らないので、反省に繋がらない。叱る側も、こどもに対しては、なぜ叱られて、どうすればよかったのかを説明し、「納得感」を与えなければいけません。</p> <p>これは、教育においては、自分を振り返る力の育成とも言えます。</p>
池田市長	<p>私自身も、なぜ、何がダメで叱られたのかを説明した上で叱ることが重要だと考えています。我々親がしっかりしないといけない。</p> <p>また、科学技術の進歩により、各分野での利便性が向上した反面、直接人と接する機会が減っており、これはICTの弊害と言えますね。</p> <p>ほかに御意見がなければ、次のテーマに進みます。</p> <p>次のテーマであります、「キャリア教育と都城フィロソフィ」について、担当課から説明をお願いします。</p>
学校教育課長	<p>再び、学校教育課の深江です。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>「キャリア教育と都城フィロソフィ」について、私の方からは、テーマ資料に基づき、キャリア教育についての説明をさせていただきます。</p> <p>～ 国や本市が定める「キャリア教育」の意味について説明 ～</p>
職員課長	<p>総務部職員課の江藤でございます。</p> <p>続きまして、私の方から、「都城フィロソフィ」についての説明をさせていただきます。</p> <p>～ 都城フィロソフィ策定の経緯やその内容等について説明 ～</p> <p>説明は以上でございます。</p>
池田市長	<p>ありがとうございました。</p> <p>ただいま、2つめのテーマ「キャリア教育と都城フィロソフィ」ということ</p>

	<p>で担当課から説明をいただきました。</p> <p>教育委員の皆様から御意見等ございましたらお願いします。</p>
赤松委員	<p>これからの社会では、例えば、知らない人と初めて会った時でも、その人との調和を考えながら、その人との距離を近づけるとともに、自分の考えはしっかりと伝えながらその人と共に学んだり、何かを創り上げようとする力が必要ではないのかと思います。</p> <p>そのためには、幼い時から自分で取り組もうとする意欲、他の者と共に学び高め合おうとするエネルギーを持たせる指導、学びの質を深める指導などが必要だと思っています。</p> <p>都城フィロソフィにある、「人生・仕事の結果に繋がる方程式」においては、足し算ではなく掛け算なのがポイントであると思いました。足し算であれば3つの要素が仮に1つが0であってもそれなりに結果は出のですが、掛け算は3つの要素が仮に1つが0であれば結果は0なのです。マイナスになれば逆の効果がでてしまいます。学力の向上も同じで、学ぶ意欲×学びの質の深さ×学びの量の関係は、足し算ではなく掛け算の関係です。</p> <p>フィロソフィの項目は、どのような社会でも通用するような項目で考えられていますので、教育現場のみならずどのような職場でも通用するように感じます。</p>
濱田委員	<p>キャリア教育に関しては、職業教育だけではないということもありましたが、まさに学年や学科を横断する試みも含めながら「考える力」「対応する力」を培っているという、伸びしろのある分野であると思います。</p> <p>都城フィロソフィの中でも、「自治体の常識を打ち破る」の項目は大変奥深いと感じました。市役所という機関・組織を活性化し続けるために、この意識がとても重要だと思っています。教育で言うと、自ら進んで新たな課題に取り組む「主体性」、根拠を示して、理論的に、「相手を説得する能力」に通じ、まさに、これからの時代で、こども達に必要なスキルであると言えます。</p>
教育長	<p>壁を打ち破る事例をひとつ紹介します。高崎町の笛水小中学校は、公立小中学校としては珍しい取り組みとして、児童生徒募集のイベントを自ら企画して実施しています。これは、都城フィロソフィを読んで感化され、実行に移したとのことです。</p>
濱田委員	<p>笛水は小規模校で、色々なことが出来る可能性があると思っています。これは小規模校であることを逆手に取った、まさに逆転の発想だと思っています。</p>
池田市長	<p>ありがとうございます。</p> <p>都城フィロソフィ策定の経緯につきましては、職員課長から説明がありましたので、改めて説明しませんが、令和元年度には市職員によって策定された都城フィロソフィを発表し、市職員には手帳を配布しています。そして、教育委員会からの要望に応えまして、来年度4月には教職員の皆様にも手帳の配布を予定しています。</p> <p>都城フィロソフィについては、仕事や人生をより良くするための基本的なこ</p>

	<p>とを示しており、人間力、先ほどの話であれば、デジタル化できない大事なアナログの部分の極みだと考えています。</p> <p>特に「あいさつ」と「接遇」については、私が副市長であった頃からずっと言い続けており、これは継続することが最重要です。昨年度からは、市役所1階の窓口レイアウトを改修し、おもてなしガイドを配置しており、市民の皆様からも好評な意見をいただくことも増えてきました。</p> <p>また、「結果にこだわる」ということも大変重要であり、民間企業では当たり前のことではあるのですが、これは市役所にはない感覚です。極論を言うと、公務員は事業に失敗しても仕事を辞めないでも済みますから。</p> <p>教育長と濱田委員からありました「常識を打ち破る」についてですが、これについても公務員が苦手とするところです。これは、携わる業務の性質上、ある程度は仕方ないのですが、市役所の常識を打ち破るためには外部の視点が必要で、その役割を担うのは市長である自分だと思っていますので、今後も率先垂範して打ち破っていきたいと考えています。</p> <p>Society5.0の意見交換の際にも申し上げましたが、教育行政では、教職員の負担を減らすことが最重要課題であるとは考えていません。やはり、最重要課題は「こどものため」であり、子ども達のためになるのであれば、教職員の方々は努力や苦勞をするべきであると考えています。</p> <p>また、フィロソフィの考えは、「あいさつ」や「身だしなみ」とか、シンプルで当たり前の内容となっていますので、小難しい考え方を押しつけるとか、そういうつもりもなく、教職員の方々の負担になるとは考えていません。</p> <p>手帳配布後は、教職員の方々に対してフィロソフィについて説明する機会があれば喜んで対応します。どういう想いがあるのかを、是非理解して欲しいと考えています。</p> <p>そして、将来的にも、この都城フィロソフィを継続して欲しいと考えています。</p> <p>本日の意見交換全般でもよいので、ほかに意見はありませんか。</p>
中原委員	<p>アナログこそが大事ということでまとまりそうですね。AIが進化しても愛が大事という。</p>
池田市長	<p>教育にもデジタル化にも愛が不可欠ということですね。AI＝愛という。</p> <p>それでは、他に御意見がなければ、予定しておりました意見交換のテーマは終わりとなります。</p> <p>それでは事務局へお返しします。</p>
吉永総合政策部長	<p>活発な御議論、ありがとうございました。</p> <p>フィロソフィについて御議論いただきましたし、AI＝愛、というフレーズも生まれました。また、いただいた御意見を元に、引き続き、次期教育大綱について、しっかりと議論を深めてまいりたいと思います。</p>

	<p>次回の会議日程につきまして、日程等の詳細が決まりましたらお知らせいたしますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p>
--	---

以上をもちまして、令和元年度第2回総合教育会議を終了いたします。

本日はどうもありがとうございました。